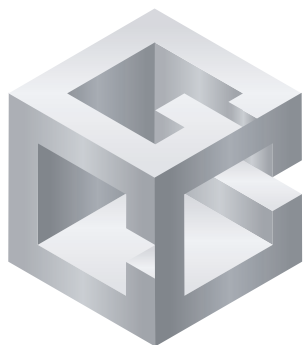




グッドキャリア企業アワード2024 イノベーション賞

厚生労働省人材開発統括官表彰

株式会社デンソー

DENSO

Crafting the Core

評価の ポイント

年2回のサーベイを通じて社員のキャリア実感を可視化し
フィードバックすることで、キャリア支援施策のPDCAに活用、
キャリア実現を実感する社員の増加につながっている

【 経営者からのメッセージ 】

環境と安心の社会課題解決に向け
「実現力のプロフェッショナル集団」
を目指し、自律的なキャリア形成に取り
組んでいます。受賞を励みに、今
後も社員の挑戦と成長を後押しする
施策拡充・風土づくりに邁進します。



総務・人事本部
副本部長
原 雄介

企業概要

事業概要：自動車技術、システム・製品事業
業 種：輸送用機械器具製造業
所 在 地：愛知県刈谷市

従業員数：54,292 人（男性 44,797 人 /
女性 9,495 人、うち非正規雇
用 5,484 人）

平均年齢：44.7 歳
創 業 年：1949 年

キャリア形成支援担当者紹介

キャリア形成支援の取組をして良かったこと

会社の制度や機会を活用し、自分のキャリアを
自律的に考え、行動している社員が増えてきて
いること。



人事企画部 制度企画室
担当係長
長瀬 佑介
担当年数：4 年

キャリア形成支援の取組で苦労したこと

キャリア実現という目に見えにくい状態をデータ
で可視化し、施策のPDCAに繋げる仕組みづく
り。



人事企画部 制度企画室
担当
杉浦 秋彦
担当年数：2 年

取組をはじめたきっかけとこれまでの経緯

自動車産業は転換期を迎え、事業の変革が必須です。変革が進む中、社員に必要な能力やスキルは変化し、キャリアの視界も不透明になっています。当社は、キャリアは「会社が社員に用意するもの」という旧来の考え方を改め、「個人の幸せと組織の大義の実現・両立を図ること」と定めました。社員が自律的にキャリアを考え、会社も社員のキャリア実現の舞台を用意すべく、様々なキャリア支援施策に取り組んでいます。

具体的な取組

多様なキャリア実現支援の施策とデータによるPDCA

当社では、社員のキャリア実現を支援するために多様な施策を展開しています。例えば、上司と部下と一緒にキャリアデザインを考える制度、キャリア相談室、自己学習支援、リスキングに関する制度、社内外の別の仕事に挑戦できる制度等、沢山の制度があります。また、社員のキャリア実現の「実感」をはじめ、各施策の状況をサーベイ等のデータを通じて収集し、現状の可視化を行っています。可視化されたデータは、ダッシュボードのテクノロジーを通じて上司や研修を受けた社員にフィードバックしています。社員のキャリア実現に向けて、様々な場面でデータが活用されながらアクションの企画や改善が行われています。



▲フィードバックされたデータの例

取組の効果

社員のキャリア実現「実感」の着実な増加

2021年より、全社員向けのサーベイを実施し、キャリア実現の「実感」について回答を得ています。肯定的な実感がある社員の割合は年々増えており、2021年から25pt以上も増加しました。キャリア相談の件数も昨対比で3倍以上増え、また、社内でキャリアについて考えるイベントも自発的に企画されています。「実感」の増加に加え、社内でキャリアについて自ら考え、行動する機運が高まってきています。

今後の課題と展望

社員一人一人の多様なキャリアに寄り添う支援への挑戦

キャリアは、千人いれば千通りの実現パターンがあり、一人一人のキャリア実現を支援する施策の充実が重要です。データを通じたPDCAを元に、既存施策の進化は勿論、社員の意欲に応える新たな施策の企画を進めます。社員のキャリア実現の「実感」を引き続き大事にしながら、今後はその「行動」や「結果」のデータにも注目し、各取り組みにフィードバックすることで、一人一人がキャリア実現を目指す仕組み作りに挑戦します。

社員の声



先端技術研究所
千田 樹絵子

- Q1** 自身のキャリアを考えるきっかけ（制度・出来事など）とは？
- Q2** その後、取り組まれたことや起こった変化とは？
- Q3** 築いたスキルを今後どう活かしていくか、または将来ありたい姿とは？

- A1** 生産技術の経験を積む中で、製造業の成長のためには事業企画から製造段階までを一貫して検討することが重要だと感じ、これまで関わったことのない事業開発を学ぶ機会を得るために社外出向制度への挑戦を決意しました。
- A2** 出向先のベンチャーキャピタルで投資業務や複数の企業の事業開発に関わりました。企業が主催した製品やアプリの体験会に参加し、そこでは私たちのチームの仮説やイメージが顧客の求めていることのアズを実際に実感できました。
- A3** 私たちの事業はモビリティ利用者のニーズや可能性に着目し、先回りの開発が不可欠です。出向中の経験を活かし、顧客が誰か、そのニーズは何かを意識しながらより良いプロダクトの創造のために努力を続けてまいります。



エレクトロニクス機器
製造1部
祖父江 仁志

- A1** データ活用へのプロに向けたキャリア進捗・スキルアップに向けて、データ分析の実践経験を積みたいと考えておりました。そこで、他部門のデジタル関連業務に自らの意思で挑戦するデジタル越境チャレンジ制度に挑みました。
- A2** この制度を通じて、他の製造部門のプロジェクトに参画し、データ分析を活用した製品の品質向上に取り組みました。その結果、スキルの向上に加え、同じ課題を持つ他部門のメンバーとも繋がることができました。
- A3** この経験を通じて得たスキルは、モノづくりの品質向上に活かしていきます。また、現在自身が実施している勉強会を通じて、仲間を増やしながら、DX推進をより一層加速させていきたいと考えております。